

研究ノート

『廣島御時代分限帳』、『輝元公御代分限帳』の記載内容についての紹介

白 峰 旬

【要 旨】

毛利氏の戦国時代の分限帳としては、山口県文書館所蔵『八箇国時代分限帳』が著名であるが、本稿では、山口県文書館のサイト (<http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/>) で閲覧することができる『廣島御時代分限帳』と『下関市史』資料編Ⅰ（下関市、1993年）に収載されている『輝元公御代分限帳』について、その記載内容を紹介し、本稿の「緒言」では若干の考察をおこなった。

【キーワード】

『廣島御時代分限帳』、『輝元公御代分限帳』、毛利輝元、家臣、石高

緒 言

本稿は、山口県文書館所蔵『廣島御時代分限帳』（以下、『廣島分限帳』と略称する）⁽¹⁾、『輝元公御代分限帳』（以下、『輝元分限帳』と略称する）⁽²⁾の記載内容（家臣名、石高）について作表して、その内容を紹介するものである。

『廣島分限帳』の年次としては、毛利輝元が広島城主⁽³⁾であった時代（天正19年〔1591〕～慶長5年〔1600〕）に比定することができ、その時代の毛利家家臣団の人名（名前）と石高を具体的に知ることができる。

『廣島分限帳』の末尾には、「廣嶋御時代之分限帳」は破損があるので、今年、「吉就様」（＝毛利吉就〔三代目藩主〕）が初めて入国の時に、元の如く書き改めるように命じた、と貞享元年（1684）六月吉日付で記されている。よって、『廣島分限帳』（請求番号52給禄2（2の1））の成立年代は貞享元年、或いは、その後数年以内と考えられる。ただし、この経緯からすると、破損があった別の「廣嶋御時代之分限帳」は、貞享元年以前に成立していたことになる。

『廣島分限帳』の記載内容を作表したものが表1である。表1を見ると、①『廣島分限帳』の中で様付は、毛利秀元（「秀元様」）18万石余と吉川広家（「広家様」）11万5000石のみである、②『廣島分限帳』には、名字がなく下の名前のみという事例はない⁽⁴⁾、③『廣島分限帳』には、安国寺恵瓊の名前の記載がない、ということがわかる⁽⁵⁾。

上記①は、当時の毛利家家臣団の中で、毛利秀元と吉川広家は別格扱いであったことを示すと思われる、その意味では毛利秀元と吉川広家のそれぞれの家臣（毛利輝元から見て陪臣〔又家来〕にあたる）は『廣島分限帳』には記載されていないと考えられる。

上記②は、名字がなく下の名前のみという事例はないことから、身分的に低い中間クラスなどは

記載されていないということがわかる。

上記③は、安国寺恵瓊が毛利家の家臣団に含まれていないことを明確に示しており、安国寺恵瓊と毛利輝元との関係を考えるうえで非常に重要である⁽⁶⁾。

なお、『廣島分限帳』には、「村上次郎右衛門」は2人いるが、それぞれ石高は異なるので、同姓同名の別人と思われる。

表1をもとに、石高分布の区分をおこない人数と%をそれぞれ示したものが表2である。そして、その人数でソートを行ったもの(人数の多いもの順)が表3であり、その%でソートを行ったもの(%の大きいもの順)が表4である。表3と表4における各順位は完全に一致し、傾向としては、石高が少ないほど人数(%)が多くなり、石高が多いほど人数(%)が少なくなる傾向が認められる。

表3をもとに、大身家臣(1000石以上)、中級家臣(200石以上1000石未満)、下級家臣(200石未満)というように3分類して計算すると、大身家臣(1000石以上)は96人(13.3%)、中級家臣(200石以上1000石未満)は206人(28.5%)、下級家臣(200石未満)は421人(58.2%)となる⁽⁷⁾。

よって、それぞれの%を見ると、大身家臣(1000石以上)は1割強、中級家臣(200石以上1000石未満)は3割弱、下級家臣(200石未満)は6割弱となり、下級家臣(200石未満)の多さと大身家臣(1000石以上)の少なさが目立つ。

『廣島分限帳』の記載内容(家臣名、石高)との比較という意味で、『輝元分限帳』の記載内容を作表したものが、表5-1、表5-2である。

表5-1、表5-2では『廣島分限帳』の名前表記・石高表記との相違点について、それぞれの表において注記した。

前掲『輝元分限帳』(『下関市史』資料編I、389~397頁)は、「輝元公御代分限帳」(389~392頁)の記載部分(表5-1に該当する)と「御馬廻衆」(393~397頁)の記載部分(表5-2に該当する)に区分できる。

前者(「輝元公御代分限帳」)は500石以上の各名前と石高を記載しており(表5-1参照)、『廣島分限帳』と内容的にはほぼ同じである。なお、前者(「輝元公御代分限帳」)は500石未満の各名前と石高の記載はないが、『廣島分限帳』には500石未満の各名前と石高の記載もある(表1参照)。

後者(「御馬廻衆」)については、『廣島分限帳』と比較すると、『廣島分限帳』に名前がある者と名前がない者がいる(表5-2参照)。『廣島分限帳』には後者(「御馬廻衆」)のように、「御馬廻衆」としてまとまった記載箇所はない。

毛利氏の戦国時代の分限帳としては、『八箇国時代分限帳』⁽⁸⁾が著名であるが、本稿で紹介した『廣島御時代分限帳』、『輝元公御代分限帳』の記載内容と比較検討する必要がある、その点については今後の課題としたい。

[註]

- (1) 山口県文書館所蔵『廣島御時代分限帳』（請求番号52給禄2（2の1））。山口県文書館所蔵『廣島御時代分限帳』は、山口県文書館のサイト（<http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/>）で閲覧することができる。
- (2) 『下関市史』資料編Ⅰ（下関市、1993年、389～397頁）。
- (3) 光成準治『毛利輝元－西国の儀任せ置かるの由候』（ミネルヴァ書房、2016年、226頁）では、毛利輝元の広島城入城の時期について、天正19年初頭としている。
- (4) ただし、名字がなく、法名や雅号のようなものだけが記されている事例はある。
- (5) そのほか、表1から指摘できる点として、寺の名前が5例（成公寺〔219石〕、大寶寺〔38石〕、長楽寺〔36石〕、積成寺〔20石〕、田迫寺〔13石〕）あることが指摘できる。
- (6) 『十六・七世紀イエズス会日本報告集』において、安国寺恵瓊は「仏僧で、九ヶ国の国主毛利（輝元）殿が父のように敬愛し、その助言によってすべてを治めており、反内府様同盟の張本人であった」（松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』Ⅰ期3巻、同朋舎出版、1988年、280頁）、「毛利殿（引用者注：毛利輝元）は常に傍に置き、父のように敬っている」（前掲『十六・七世紀イエズス会日本報告集』Ⅰ期3巻、206頁）、「彼（引用者注：安国寺恵瓊）は自分が欲することは何でも毛利殿（引用者注：毛利輝元）にやらせていた」（前掲『十六・七世紀イエズス会日本報告集』Ⅰ期3巻、206頁）と記されている。よって、安国寺恵瓊は、毛利輝元が「常に傍に置」いて「父のように敬愛し、その助言によってすべてを治めて」いる人物であったことがわかる。その意味では、安国寺恵瓊は、毛利輝元の家臣という範疇を遥かに凌駕する人物であり、輝元に対して絶大な影響力を持っていたことがわかる。ちなみに、毛利輝元の生年は天文22年（1553）であり、安国寺恵瓊の生年については同6年（1537）と同8年（1539）の2説あるので、安国寺恵瓊は毛利輝元よりも14歳、或いは、16歳、年上であったことになる。
- (7) %の計算は小数点第二位を四捨五入した。
- (8) 山口県文書館所蔵『八箇国時代分限帳』（請求番号52給禄1）。山口県文書館所蔵『八箇国時代分限帳』は、山口県文書館のサイト（<http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/>）で閲覧することができない。刊本としては、岸浩編著『資料・毛利氏八箇国御時代分限帳』（マツノ書店、1987年）がある。

表1

『廣島御時代分限帳』（山口県文書館所蔵、請求番号52給禄2（2の1））

石 高	名 前	備 考
18万石余	秀元様	毛利秀元
11万5000石	廣家様	吉川広家
4万7000石	^(寛) 完 (宍カ) 戸備前殿 ^(註1)	宍戸元統
3万8166石	毛利大蔵大輔殿	毛利元康
2万 822石	毛利讃岐守殿	天野（毛利）元政
1万8383石	平賀木工頭	平賀元相
1万7588石	益田玄蕃 ^(寛) (蕃カ) 頭	益田元祥
1万4453石	熊谷豊前	熊谷元直
1万4039石	堅田兵部少輔	堅田元慶
1万2296石	児玉若狭	児玉就秋
1万1785石	山内九郎兵衛	山内広通
1万1029石	浅口彦左衛門	
1万 939石	三吉太郎左衛門	
1万 241石	天野五郎左衛門	
1万 144石	吉見長次郎	吉見広長
8684石	冷泉惣四郎	
8638石	福原式部大輔	
8188石	二宮信濃守	
8013石	佐世石見守	
7784石	佐波又左衛門	
7154石	阿曾沼勝内 ^(註2)	
6826石	口羽七郎左衛門	
6631石	成羽孫兵衛	
6546石	口羽刑部少輔	
5023石	繁澤左近	
4606石	和智勝兵衛	
4540石	天野新兵衛	
4242石	市川竹寿	
3799石	林志摩	
3682石	熊谷与右衛門	
3447石	井原大学頭	
3427石	乃美三郎兵衛	
3122石	児玉宮内	
3109石	児玉若狭	
3052石	中河与左衛門	
3000石	粟屋右近	
3000石	児玉五郎右衛門	
2786石	渡辺飛驒	
2673石	久佐友林	
2667石	児玉与右衛門	
2652石	赤木蔵人	
2608石	石堅孫兵衛	
2395石	三尾小一郎	
2382石	高屋原兵部	
2200石	桂五郎左衛門	

2148石	杉原少右衛門
2111石	粟屋出雲守
2137石	祖式次郎右衛門
2000石	益田修理
2000石	志道五郎左衛門
1997石	榎本中務大輔
1947石	⁽³²⁾ 完（宍カ）戸民部少輔
1921石	長井伊勢守
1872石	小田孫兵衛
1839石	桂三郎兵衛
1749石	香川甚右衛門
1697石	有地美作
1682石	渡辺四郎右衛門
1681石	南方九左衛門
1677石	平佐主計助
1652石	国司隼人佐
1632石	天野九郎左衛門
1609石	石原太郎左衛門
1593石	宮嶋法
1586石	杉岡吉兵衛
1537石	伊達三左衛門
1504石	福原左近
1481石	長屋宮松
1450石	井上伯耆
1443石	熊谷藤左衛門
1440石	己斐理右衛門 ^(注3)
1439石	財満次郎兵衛
1411石	小川右衛門尉
1395石	赤川主水佐
1379石	宮瀬兵衛 ^(注4)
1333石	佐世伊豆
1319石	門田神右衛門
1300石	⁽³²⁾ 完（宍カ）戸左衛門尉
1284石	吉田孫右衛門
1280石	小田神兵衛
1267石	粟屋久右衛門
1266石	清水五郎左衛門
1243石	粟屋孫介
1181石	粟屋五郎左衛門
1181石	野山清右衛門
1179石	日野七兵衛
1165石	内藤五郎兵衛
1164石	⁽³²⁾ 完（宍カ）戸十郎兵衛
1135石	村上三介
1100石	村尾又右衛門
1077石	天野次郎右衛門
1060石	柳澤監物
1059石	高屋原弥右衛門
1042石	国司土佐守

1023石	粟屋四郎兵衛
1000石	草刈太郎左衛門
990石	小方太左衛門
968石	渡辺五郎右衛門
964石	井上五兵衛
943石	上村三郎兵衛
937石	三戸左馬助
925石	上山善右衛門
911石	乃美忠左衛門
909石	粟屋小次郎
898石	張六左衛門
885石	市川孫右衛門
877石	三浦四兵衛
841石	星田藏助
853石	祖式源吉
834石	利和助右衛門
827石	粟屋縫殿
823石	湯浅越中守
813石	口羽主殿
811石	長金太郎 ^(注5)
775石	井上七郎兵衛
763石	佐波善内
752石	赤木丹後
748石	小泉助兵衛
740石	内藤善左衛門
738石	児玉市允
737石	岡十郎右衛門
728石	矢田新介
707石	伊達三郎左衛門
700石余	^(空) 完(実カ) 戸善左衛門 ^(注6)
700石	阿曾沼源左衛門
676石	粟屋太郎兵衛
674石	田綱三郎左衛門 総敷 ^(注7)
672石	夏見吉左衛門
660石	児玉与三
659石	富永跡
653石	池上孫右衛門
652石	口羽孫右衛門
648石	佐々又右衛門
640石	村岡久作
615石	岡与次郎
609石	村岡彦左衛門
580石	熊谷雅楽
579石	有地九左衛門
577石	井上彦右衛門
577石	秋山孫三
554石	才間孫市
551石	林梅隣

543石	平賀太郎左衛門
539石	長善右衛門
538石	木原次郎兵衛
528石	津々惣兵衛
523石	粟屋次郎左衛門
508石	渡辺市兵衛
507石	大坂清右衛門
504石	立音
500石	市川助兵衛
500石	曾祢孫左衛門
475石	湯原又兵衛
472石	高屋原四郎兵衛
461石	粟屋弥左衛門
460石	小田又十郎
460石	都野与三兵衛
450石	野次与三右衛門
458石	小寺右衛門
456石	那須与三右衛門
450石	檜崎太郎兵衛
450石	東久次郎
444石	能良源右衛門
443石	芥川少輔次郎
434石	赤川次郎左衛門
433石	蔵田市助
430石	井原彦右衛門
429石	国司平左衛門
428石	児玉八郎左衛門
427石	児玉助右衛門
424石	完 ^(空) （宍カ）戸善兵衛
424石	坂九郎左衛門
421石 5斗	八番原八郎右衛門 幡敷 ^(注8)
420石	口羽六兵衛
400石	入江与三兵衛
397石	内藤十右衛門
392石	金重五郎右衛門
388石	井上五郎左衛門
378石	小笠原大蔵
377石	志道長門代
375石	小田清左衛門
373石	大多和市善
368石	野村松若
367石	以筆軒
366石	赤川十郎左衛門
364石	高次市介
363石	桂宮内少輔 ^(注9)
362石	井上新三郎
360石	蔵田与三兵衛
359石	児玉孫兵衛

358石	⁽³²⁾ 完 (完カ) 戸左馬助
357石	坪生与三兵衛
352石	平佐七郎右衛門
351石	庄原一郎兵衛
351石	江口九郎右衛門
350石	清水右衛門尉
348石	柳生松右衛門
344石	⁽³⁾ 井上 ^(注10)
342石	三山七郎右衛門
341石	三上淡路守
341石	楊井筑後
340石	高木惣兵衛
340石	国重又右衛門
333石	宮十兵衛 ^(注11)
332石	草井藤次郎
331石	神保宗内
330石	平川弥三郎
328石	児玉一左衛門
327石	桂善左衛門
320石	児玉隠岐
320石	刺賀佐左衛門
318石	山縣平左衛門
317石	飯田木工允
316石	榎本五右衛門
315石	吉原彦右衛門
313石	花房彦左衛門
312石	井上八郎右衛門
311石	安田出雲
303石	和智清右衛門
300石	木梨平左衛門
300石	村上助右衛門
300石	山田吉兵衛
299石	井上与三兵衛
299石	南神右衛門 ^(注12)
295石	福原九兵衛
294石	久芳五郎右衛門
289石	湯川源藏
288石	佐武三郎右衛門
285石	山田平右衛門
280石	三上豊後守
280石	岸田吉右衛門
277石	末永七郎右衛門
275石	羽仁又右衛門
269石	桂因幡
269石	高田惣兵衛
262石	宗是
262石	志道惣兵衛
262石	芦田五郎七
260石	佐武彦右衛門

259石	児玉長門守
258石	財間八郎兵衛
258石	荒谷源右衛門
253石	村上清四郎
253石	福原次郎兵衛
252石	渡辺孫十郎
252石	飯田彦兵衛
251石	東陽軒
249石	東又右衛門 ^(注13)
248石	渡辺五郎右衛門
248石	村上小右衛門
248石	江田新右衛門
245石	竹井惣兵衛
244石	信常市允
243石	中村孫右衛門
243石	福原惣左衛門
242石	渡辺助兵衛
240石	福原七郎右衛門
240石	国司備後
238石	中屋与三兵衛
238石	福井吉十郎
237石	末近四郎三郎
236石	黒川彦兵衛
235石	真壁与三兵衛
234石	東條九郎右衛門
232石	井上次郎右衛門
231石	土居市允
231石	三谷勝次郎
230石	上山惣兵衛
231石	周布与左衛門
230石	南孫次郎 ^(注14)
230石	長沼宮内
228石	山田平左衛門
227石	井上与三兵衛
224石	手嶋新三郎
223石	児玉平兵衛
221石	内藤助次郎
221石	新見六蔵
220石	飯田又兵衛
227石	杉孫次郎 ^(注15)
227石	林三郎右衛門
227石	豊田与右衛門
220石	内藤二兵衛
219石	成公寺
218石	温泉才徳
215石	小倉善右衛門
213石	波多野源兵衛
212石	河井大炊助
210石	裳懸九郎右衛門

209石	井上惣左衛門
209石	羽仁藤右衛門
208石	小梨又六
206石	河北木工助
206石	神西惣左衛門
204石	友国三郎左衛門
203石	田原善内
203石	児玉六郎右衛門
202石	波多野木工允
202石	高尾右衛門
201石	井上太郎右衛門
201石	久芳与三兵衛
200石	桂三河守
200石	桂万五郎
199石	坂与十郎
199石	椋梨兵部
198石	小方才福
197石	真田孫兵衛
197石	梶草神右衛門
196石	綿貫新右衛門
194石	杉山左馬允
193石	財間神右衛門
194石	伊勢豊後
192石	中原神兵衛
192石	田門右衛門尉
191石	桜井新左衛門
189石	光永孫作
186石	佐藤惣右衛門
186石	長井市允
185石	吉川宗伯
185石	福井十郎兵衛
184石	河田太郎左衛門
184石	小泉新介
187石	包久藏 ^(注16)
184石	小川助左衛門
181石	井上与右衛門
183石	村上又右衛門
180石	小川善兵衛
180石	飯尾久右衛門
178石	弘中藤右衛門
177石	諏方傳兵衛
176石	大田垣次郎右衛門
175石	三木次右衛門
177石	児玉助左衛門
172石	町田又三郎
170石	井上市介
169石	飯田与一左衛門
168石	湯浅源兵衛 ^(注17)
166石	山縣五郎兵衛

164石	近藤惣右衛門
163石	裳懸采女
163石	見内神兵衛
163石	久芳新太郎
164石	児玉十郎左衛門
164石	井上源右衛門
161石	信常与右衛門
159石	長野右衛門大夫
155石 3 升 1 合	植木孫左衛門
151石	山縣市兵衛
153石	末国与左衛門
152石	末近次郎兵衛
149石	福原和泉
147石	高崎西殿
146石	金山孫市
146石	三浦惣太郎
146石	井上越前
146石	三戸久兵衛
146石	柚木木工助
146石	三山右衛門
144石	井上太兵衛
144石	井上七兵衛
144石	服部善兵衛
144石	山縣二郎左衛門
137石	粟屋四郎右衛門
137石	包久次郎兵衛
137石	福万彦右衛門
137石	桜井又吉
137石	粟屋四郎右衛門
137石	白倉彦左衛門
136石	山縣惣兵衛
135石	井上九左衛門
135石	三須六郎右衛門
134石	入江兵右衛門
134石	井上平右衛門
132石	裳懸木工助
131石	岩脇又右衛門
130石	末近右衛門
130石	粟屋久松
130石	宗近右衛門
130石	值菴
130石	門田五兵衛
130石	中屋但馬
130石	長屋左馬助
129石	高山助兵衛
126石	浅原藤右衛門
126石	高尾又右衛門
125石	二宮与次
125石	田中与一兵衛

125石	有田弥三郎
124石	小西宗味
124石	楢原又左衛門
124石	生田新五左衛門
121石	田原平右衛門
121石	沼田民部
123石	財間次右衛門
120石	井上木工助
119石	宗近与三郎
119石	楢崎五郎兵衛
119石	福万豊前
119石	桜井小左衛門
117石	市木善次郎
116石	児玉平右衛門
116石	小田長吉
116石	国松三郎兵衛
116石	馬場小兵衛
115石	作間新五左衛門
113石	井上助兵衛
113石	粟屋采女
112石	三吉善兵衛
110石	河田太郎左衛門
110石	杉原次郎兵衛
110石	包久弥七郎
110石	斗増兵左衛門
109石	三戸六郎右衛門
106石	高次三郎左衛門
105石	町田孫右衛門
105石	中屋清右衛門
103石	竹田平兵衛
103石	国貞次郎右衛門
103石	長久次郎左衛門
103石	楢嶋九郎右衛門
103石	内膳播磨
102石	嶋田惣左衛門
101石	三戸五郎右衛門
101石	田綱五郎右衛門 総歟 ^(注18)
100石	佐世次郎兵衛
99石	粟屋刑部左衛門
98石	福原与兵衛
98石	佐々木五郎兵衛
97石	新里弥左衛門
96石	永真
95石	福原四郎兵衛
94石	梨和亀菊
93石	渡辺源三郎
93石	安田長右衛門
93石	井上助右衛門

93石	坂六右衛門 ^(注19)
93石	松本虎竹
93石	市来弥三
92石	飯田与十郎
91石	日名内与右衛門
90石	文喜
90石	蝮川新介
89石	吉近太郎右衛門
88石	大嶋神五郎
88石	国司平兵衛
88石	大隅甚五郎
87石	国弘孫兵衛
87石	実吉彦左衛門
87石	羽仁次郎右衛門
86石	坪井助右衛門
86石	日名内左馬助
86石	入江神兵衛
86石	中村新兵衛
85石	柚木仙六
85石	国司助右衛門
84石	横見与三兵衛
83石	糸賀五郎右衛門
83石	二分与次郎
83石	馬屋原吉右衛門
82石	柏村五郎兵衛
82石	横見五郎左衛門
82石	中村神右衛門
81石	弘六郎右衛門 ^(注20)
80石	西順
80石	越知兵七 ^(注21)
80石	舟越太郎兵衛
79石	三河内勘兵衛
79石	三谷又兵衛
79石	手嶋彦兵衛
79石	手嶋次郎右衛門
78石	椋梨三郎兵衛
78石	吉末平兵衛
77石	久芳周防
77石	赤川又六
76石	国貞神左衛門
75石	景山与三兵衛
74石	垣田内蔵丞 ^(注22)
74石	児玉藤三
73石	木村彦左衛門
72石	内海小右衛門
72石	敷名少輔七郎
70石	真田源右衛門
70石	香川彦左衛門
70石	国貞神左衛門

70石	蔵田太郎右衛門
70石	井上孫兵衛
69石	田坂善兵衛
69石	黒瀬惣兵衛
69石	内藤七郎右衛門
68石	中村平左衛門
68石	日名内又兵衛
68石	近藤与一兵衛
67石	近藤藤右衛門
67石	田坂太郎兵衛
67石	河井惣右衛門
65石	内藤市介
65石	山縣惣兵衛
65石	清田彦三郎
64石	赤川小兵衛
64石	安達孫右衛門
63石	南太郎右衛門 ^(註23)
62石	杉原栄閑
62石	宮源次郎 ^(註24)
62石	積山神吉
62石	波多野右衛門
62石	御手洗又右衛門
62石	神保清左衛門
60石	末近太郎兵衛
60石	大中七郎右衛門
59石	児玉次郎左衛門
59石	飯田与三
59石	三田久次郎
59石	池首庄 座敷 ^(註25)
58石	福万市右衛門
58石	三輪九右衛門
58石	児玉右衛門尉
57石	門田木工允
57石	小梨新兵衛
55石	落合平右衛門
55石	波根弥右衛門
54石	横見三郎右衛門
54石	小松二郎兵衛
54石	御蘭宇平右衛門 園敷 ^(註26)
54石	河野与三郎
53石	望月二郎左衛門
53石	近弘又十郎
53石	田坂神右衛門
53石	田原清三郎
52石	荒谷与四郎
52石	大隅市允
51石	石津神介

50石	今井左馬助
49石	木原七郎右衛門
49石	山田与次郎
49石	小田源兵衛
49石	寺内日向守
49石	井上越前守
49石	小川市兵衛
48石	用田孫市
47石	尾崎善右衛門
47石	山田孫兵衛
47石	門田彦右衛門
46石	椋梨九郎右衛門
46石	末永太郎兵衛
46石	南市右衛門 <small>(注27)</small>
45石	井上助次郎
45石	草井内蔵丞
45石	南彦市 <small>(注28)</small>
45石	田門新兵衛
44石	宮原四郎左衛門
44石	宮与左衛門
43石	神田右馬助
43石	高橋助兵衛
43石	和泉
42石	中川春賢
42石	山田七郎兵衛
41石	林藤左衛門
40石	真己田神兵衛
40石	田中若狭
39石	村上次郎右衛門
39石	得友後藤兵衛
39石	渡辺小兵衛
38石	大寶寺
38石	黒瀬彦兵衛
37石	賀藤新三郎
37石	増原与一郎
37石	三宅孫右衛門
37石	斎藤彦作
37石	神保与右衛門
36石	重宗久兵衛
36石	長楽寺
35石	市川平兵衛
35石	正岡休意
35石	久村 <small>(注29)</small>
35石	荒谷藤右衛門
35石	二分源兵衛
35石	羽仁丹後守
35石	河北孫右衛門尉
35石	越知竹若
34石	児玉新右衛門

34石	玉木太郎左衛門
34石	廻神次郎左衛門
33石	河上周榮
33石	荒谷惣兵衛
33石	黒瀬孫右衛門
32石	村上善五郎
32石	殊泰
31石	横見四郎右衛門
31石	岡岸(崎カ)一右衛門 ^(注30)
31石	武安助左衛門
31石	河井源右衛門
31石	布施又右衛門
31石	三宅新右衛門
30石	平川藤右衛門
30石	渡辺四郎兵衛
30石	厚母新右衛門
30石	近藤七兵衛
30石	佐伯木工助
30石	松林軒
30石	二分藤右衛門
30石	成相七郎右衛門
30石	草井善左衛門
30石	山田次郎兵衛
30石	村上次郎右衛門
30石	増原惣右衛門
29石	大多和小右衛門
29石	渡辺源右衛門
28石	嶋末平左衛門
28石	河内彦兵衛
27石	下見監物
27石	伊香左衛門
27石	大町孫右衛門
27石	木谷七郎右衛門
26石	山中新十郎
26石	三分一式部
26石	井上惣右衛門
26石	岡崎市兵衛
25石	林雅楽
25石	真田又兵衛
24石	宮原弥三郎
24石	山田八郎右衛門
24石	甲田右近
24石	池上源三郎
23石	内海三郎左衛門
23石	近藤市右衛門
23石	久芳孫市
23石	河内與三郎
22石	用田助三
22石	田坂金慶後家

22石	渡辺弥介
26石	林新介
22石	安友新左衛門
22石	神保善左衛門
22石	井上又兵衛
22石	弘中木工允
22石	福嶋宮寿
22石	宗近市右衛門
22石	山脇又兵衛
21石	布施弥三兵衛
21石	三分一喜庵
21石	福原兵部
21石	林五郎右衛門
21石	手嶋亀寿
20石	有田市右衛門
20石	一坪太郎兵衛
20石	長濱太郎右衛門
20石	長濱助兵衛
20石	小松二郎右衛門
20石	三嶋左衛門 <small>（美）</small> （大夫カ）
20石	玄古
20石	積成寺
20石	三井清吉
20石	久行与右衛門
20石	白井神兵衛
20石	中嶋善左衛門
19石	山中与次郎
19石	田坂助右衛門
19石	在津長亀
19石	渡辺孫三
19石	三戸猪右衛門
19石	庄原次郎右衛門
18石	南栖閑
18石	横免藤兵衛
18石	白松次兵衛
17石	村上新兵衛
17石	倉橋助右衛門
17石	手嶋与次郎
17石	横見太郎右衛門
17石	宗入
17石	手嶋清兵衛
17石	井上小右衛門
16石	山縣惣右衛門
16石	矢野助右衛門
16石	池田又兵衛
16石	村上九郎右衛門
16石	佐々木七郎右衛門
16石	御郷孫兵衛
15石	舟越金寿

15石	林六郎右衛門
15石	平田助左衛門
15石	柚木三郎右衛門
15石	神保清三
15石	内藤与右衛門
15石	矢野孫右衛門
14石	常光
14石	慶頓
14石	青水清左衛門
14石	賀藤惣左衛門
14石	永久源右衛門
14石	下田九郎右衛門
13石	二分次郎右衛門
13石	麦田又三郎
13石	石原三郎右衛門
13石	楢原藤左衛門
13石	中村与左衛門
13石	田迫寺
12石	直嶋源兵衛
12石	林作
12石	黒瀬弥蔵
12石	立野竹松
12石	高木兵部
12石	三分一又兵衛
12石	桧垣与右衛門
12石	倉橋源右衛門
12石	久芳一右衛門
11石	松原平右衛門
11石	新見與一
11石	山室又兵衛
11石	山田与一左衛門
11石	東五郎右衛門
10石	二分三郎右衛門
10石	佃源右衛門
10石	矢原五郎左衛門
10石	山田市介
10石	長野源左衛門
10石	才間助左衛門
10石	吉井清左衛門
10石	田坂清四郎
10石	吉井五郎左衛門
10石	川原平左衛門
10石	近藤与右衛門
10石	乃美小五郎
10石	張慶

※上表における「備考」は、作表にあたり補足したものである。

- (注1) 「完」は「しし」という読み方があるので（『異体字解説字典』、柏書房、1987年、55頁）、「完戸」を「ししど」と読みことは可能である。以下、「完戸民部少輔」（1947石）、「完戸左衛門尉」（1300石）、「完戸十郎兵衛」（1164石）、「完戸善左衛門」（700石余）、「完戸善兵衛」（424石）、「完戸左馬助」（358石）についての「完戸」の読み方も同様である。
- (注2) 「阿曾沼勝内」は阿曾沼元郷のことを指すと考えられる。
- (注3) 名字の「已斐」は「こい」と読むと考えられる。
- (注4) 史料の原文では「宮 瀬兵衛」と記されているので、「宮」が名字である。
- (注5) 史料の原文では「長 金太郎」と記されているので、「長」が名字である。
- (注6) 700石余（史料原文では「七百石余」というように、石高記載の末尾を「余」としている事例は、この事例以外では『廣島分限帳』では、「秀元様（＝毛利秀元）」の18万石余（史料原文では「拾八万石余）」のみである。
- (注7) 史料の原文では「総歟（史料の原文では「歟」ではなく「歟」の異体字で記されている）」は異筆で右横に小さく書かれている。よって、この記載は、後世（この分限帳が成立した貞享年間より後の時代）、萩藩でこの分限帳をチェックした時（内容を改めた時）に記されたものと考えられる。
- (注8) 史料の原文では「幡歟（史料の原文では「歟」ではなく「歟」の異体字で記されている）」は異筆で右横に小さく書かれている。よって、この記載は、後世（この分限帳が成立した貞享年間より後の時代）、萩藩でこの分限帳をチェックした時（内容を改めた時）に記されたものと考えられる。
- (注9) 史料の原文では「桂 宮内少輔」と記されているので、「桂」が名字である。
- (注10) 史料の原文では「井上」とのみ記されており、下の名前の記載はない。
- (注11) 史料の原文では「宮 十兵衛」と記されているので、「宮」が名字である。
- (注12) 史料の原文では「南 神右衛門」と記されているので、「南」が名字である。
- (注13) 史料の原文では「東 又右衛門」と記されているので、「東」が名字である。
- (注14) 史料の原文では「南 孫次郎」と記されているので、「南」が名字である。
- (注15) 史料の原文では「杵 孫次郎（杵は「杉」の異体字）と記されているので、「杉」が名字である。
- (注16) 史料の原文では「包 久蔵」と記されているので、「包」が名字である。
- (注17) 史料の原文では「湯淺源兵衛」と記されている。
- (注18) 史料の原文では「総歟（史料の原文では「歟」ではなく「歟」の異体字で記されている）」は異筆で右横に小さく書かれている。よって、この記載は、後世（この分限帳が成立した貞享年間より後の時代）、萩藩でこの分限帳をチェックした時（内容を改めた時）に記されたものと考えられる。
- (注19) 史料の原文では「坂 六右衛門」と記されているので、「坂」が名字である。
- (注20) 史料の原文では「弘 六郎右衛門」と記されているので、「弘」が名字である。
- (注21) 名字の「越知」は「おち」と読むと考えられる。
- (注22) 「内蔵丞」は「くらのじょう」と読むと考えられる。
- (注23) 史料の原文では「南 太郎右衛門」と記されているので、「南」が名字である。
- (注24) 史料の原文では「宮 源次郎」と記されているので、「宮」が名字である。
- (注25) 史料の原文では「座歟（史料の原文では「歟」ではなく「歟」の異体字で記されている）」は異筆で右横に小さく書かれている。よって、この記載は、後世（この分限帳が成立した貞享年間より後の時代）、萩藩でこの分限帳をチェックした時（内容を改めた時）に記されたものと考えられる。
- (注26) 史料の原文では「園歟（史料の原文では「歟」ではなく「歟」の異体字で記されている）」は異筆で右横に小さく書かれている。よって、この記載は、後世（この分限帳が成立した貞享年間より後の時代）、萩藩でこの分限帳をチェックした時（内容を改めた時）に記されたものと考えられる。
- (注27) 史料の原文では「南 市右衛門」と記されているので、「南」が名字である。
- (注28) 史料の原文では「南 彦市」と記されているので、「南」が名字である。
- (注29) 史料の原文では「久村」とのみ記されており、下の名前の記載はない。
- (注30) 峯は「崎」の異体字と思われるが、判読についての判断は保留する。

※『廣島御時代分限帳』が入れられている木箱には、『廣島御時代分限帳』とは別に以下の文書が存在する。ただし、原文は縦書である。

へノ印三拾六番入口記 三ノ御帳 一 分限帳壹冊 仕廣嶋御時代之分 一 覚書壹通 已上 丑ノ 七月

廣嶋御時代之分限帳破損 有之付而今年 吉就様初而御入国之節如元 書改被 仰付置者也 貞享元甲子年六月吉日
--

※『廣島御時代分限帳』が入れられている木箱に貼られたラベルは以下のようになる。

大正六年改	
第四類	
成乙 號	
第五拾壹番	
摘	廣嶋御時代
要	分限帳
	壹冊

※このラベルは縦書である。

十三

※このラベルは縦書である。

廣嶋御時代
分限帳
明治六年 改

毛 利 家 文 庫		
類	52給	禄
番	2	

※このラベルは横書である。

(2の1)

表2

『廣島御時代分限帳』における石高分布

No.	石 高	人 数	%
1	10万石～	2人	0.3%
2	2万石～10万石未満	3人	0.4%
3	1万石～ 2万石未満	10人	1.4%
4	9000石～ 1万石未満	0人	0%
5	8000石～9000石未満	4人	0.6%
6	7000石～8000石未満	2人	0.3%
7	6000石～7000石未満	3人	0.4%
8	5000石～6000石未満	1人	0.1%
9	4000石～5000石未満	3人	0.4%
10	3000石～4000石未満	9人	1.2%
11	2000石～3000石未満	13人	1.8%
12	1900石～2000石未満	3人	0.4%
13	1800石～1900石未満	2人	0.3%
14	1700石～1800石未満	1人	0.1%
15	1600石～1700石未満	7人	1.0%
16	1500石～1600石未満	4人	0.6%
17	1400石～1500石未満	6人	0.8%
18	1300石～1400石未満	5人	0.7%
19	1200石～1300石未満	5人	0.7%
20	1100石～1200石未満	7人	1.0%
21	1000石～1100石未満	6人	0.8%
22	900石～1000石未満	8人	1.1%
23	800石～ 900石未満	10人	1.4%
24	700石～ 800石未満	11人	1.5%
25	600石～ 700石未満	11人	1.5%
26	500石～ 600石未満	16人	2.2%
27	400石～ 500石未満	23人	3.2%
28	300石～ 400石未満	47人	6.5%
29	200石～ 300石未満	80人	11.1%
30	100石～ 200石未満	123人	17.0%
31	90石～ 100石未満	17人	2.4%
32	80石～ 90石未満	24人	3.3%
33	70石～ 80石未満	20人	2.8%
34	60石～ 70石未満	23人	3.2%
35	50石～ 60石未満	23人	3.2%
36	40石～ 50石未満	27人	3.7%
37	30石～ 40石未満	46人	6.4%
38	20石～ 30石未満	50人	6.9%
39	10石～ 20石未満	68人	9.4%
	合 計	723人	100.1%

※上表における%の計算では小数点第二位を四捨五入した。

※10石未満の記載はない。

表3

『廣島御時代分限帳』における石高分布

※人数でソートをかけたもの(人数の多いもの順)

No.	石高	人数	%
30	100石～200石未満	123人	17.0%
29	200石～300石未満	80人	11.1%
39	10石～20石未満	68人	9.4%
38	20石～30石未満	50人	6.9%
28	300石～400石未満	47人	6.5%
37	30石～40石未満	46人	6.4%
36	40石～50石未満	27人	3.7%
32	80石～90石未満	24人	3.3%
27	400石～500石未満	23人	3.2%
34	60石～70石未満	23人	3.2%
35	50石～60石未満	23人	3.2%
33	70石～80石未満	20人	2.8%
31	90石～100石未満	17人	2.4%
26	500石～600石未満	16人	2.2%
11	2000石～3000石未満	13人	1.8%
24	700石～800石未満	11人	1.5%
25	600石～700石未満	11人	1.5%
3	1万石～2万石未満	10人	1.4%
23	800石～900石未満	10人	1.4%
10	3000石～4000石未満	9人	1.2%
22	900石～1000石未満	8人	1.1%
15	1600石～1700石未満	7人	1.0%
20	1100石～1200石未満	7人	1.0%
17	1400石～1500石未満	6人	0.8%
21	1000石～1100石未満	6人	0.8%
18	1300石～1400石未満	5人	0.7%
19	1200石～1300石未満	5人	0.7%
5	8000石～9000石未満	4人	0.6%
16	1500石～1600石未満	4人	0.6%
2	2万石～10万石未満	3人	0.4%
7	6000石～7000石未満	3人	0.4%
9	4000石～5000石未満	3人	0.4%
12	1900石～2000石未満	3人	0.4%
1	10万石～	2人	0.3%
6	7000石～8000石未満	2人	0.3%
13	1800石～1900石未満	2人	0.3%
8	5000石～6000石未満	1人	0.1%
14	1700石～1800石未満	1人	0.1%
4	9000石～1万石未満	0人	0%
合計		723人	100.1%

※上表における%の計算では小数点第二位を四捨五入した。

※10石未満の記載はない。

表 4

『廣島御時代分限帳』における石高分布

※%でソートをかけたもの（%の大きいもの順）

No.	石 高	人 数	%
30	100石～ 200石未満	123人	17.0%
29	200石～ 300石未満	80人	11.1%
39	10石～ 20石未満	68人	9.4%
38	20石～ 30石未満	50人	6.9%
28	300石～ 400石未満	47人	6.5%
37	30石～ 40石未満	46人	6.4%
36	40石～ 50石未満	27人	3.7%
32	80石～ 90石未満	24人	3.3%
27	400石～ 500石未満	23人	3.2%
34	60石～ 70石未満	23人	3.2%
35	50石～ 60石未満	23人	3.2%
33	70石～ 80石未満	20人	2.8%
31	90石～ 100石未満	17人	2.4%
26	500石～ 600石未満	16人	2.2%
11	2000石～3000石未満	13人	1.8%
24	700石～ 800石未満	11人	1.5%
25	600石～ 700石未満	11人	1.5%
3	1万石～ 2万石未満	10人	1.4%
23	800石～ 900石未満	10人	1.4%
10	3000石～4000石未満	9人	1.2%
22	900石～1000石未満	8人	1.1%
15	1600石～1700石未満	7人	1.0%
20	1100石～1200石未満	7人	1.0%
17	1400石～1500石未満	6人	0.8%
21	1000石～1100石未満	6人	0.8%
18	1300石～1400石未満	5人	0.7%
19	1200石～1300石未満	5人	0.7%
5	8000石～9000石未満	4人	0.6%
16	1500石～1600石未満	4人	0.6%
2	2万石～10万石未満	3人	0.4%
7	6000石～7000石未満	3人	0.4%
9	4000石～5000石未満	3人	0.4%
12	1900石～2000石未満	3人	0.4%
1	10万石～	2人	0.3%
6	7000石～8000石未満	2人	0.3%
13	1800石～1900石未満	2人	0.3%
8	5000石～6000石未満	1人	0.1%
14	1700石～1800石未満	1人	0.1%
4	9000石～ 1万石未満	0人	0%
	合 計	723人	100.1%

※上表における%の計算では小数点第二位を四捨五入した。

※10石未満の記載はない。

表5-1

「輝元公御代分限帳」

(『下関市史』資料編I)

石 高	名 前	『廣島御時代分限帳』の名前表記・石高表記との相違点
18万石余	秀元様	
11万5000石	広家様	
4万7000石	■穴戸備前守殿	穴戸→完戸
3万8166石	毛利大藏大輔殿	
2万822石	毛利讃岐守殿	
1万8383石	■平賀木之助	木之助→木之頭
1万7588石	■益田玄蕃頭	玄蕃頭→玄番頭
1万4453石	熊谷豊前	
1万4039石	■堅田兵部少	兵部少→兵部少輔
▼1万2292石	■児玉若狭守	若狭守→若狭、1万2296石
1万1785石	山内九郎兵衛	
▼1万1209石	浅口彦左衛門	1万1029石
1万939石	三吉太郎左衛門	
▼1万240石	天野五郎左衛門	1万241石
1万144石	吉見長次郎	
8684石	冷泉惣四郎	
8188石	二宮信濃守	
8638石	■福原式部太輔	式部太輔→式部大輔
8013石	佐世石見守	
7784石	佐波又左衛門	
7154石	阿曾沼勝内	
6826石	口羽七郎左衛門	
6631石	■成田孫兵衛	成田→成羽
6546石	口羽刑部少輔	
▼5026石	繁澤左近	5023石
4606石	■和知勝兵衛	和知→和智
4540石	天野新兵衛	
4242石	市川竹寿	
3799石	■林志摩守	志摩守→志摩
▼2156石3斗	熊谷与右衛門	3682石
3447石	井原大学頭	
3427石	乃美三郎兵衛	
▼3123石	■児玉宮内少	宮内少→宮内、3122石
3109石	■児玉若狭守	若狭守→若狭
3052石	■中川与左衛門	中川→中河
3000石	粟屋右近	
3000石	■児玉五郎左衛門	五郎左衛門→五郎右衛門
2786石	■渡辺飛驒守	飛驒守→飛驒
2673石	久佐友林	
2667石	児玉与右衛門	
2652石	赤木藏人	
2608石	石堅孫兵衛	
2395石	三尾小一郎	
2382石	■馬屋原兵部少	馬屋原→高屋原、兵部少→兵部

▼ 2100石	桂五郎左衛門	2200石
2148石	■杉原勝右衛門	勝右衛門→少右衛門
▼ 1683石	■祖式次郎左衛門	次郎左衛門→次郎右衛門、2137石
2111石	粟屋出雲守	
2000石	志道五郎左衛門	
▼ 1917石	■榎本中務少輔	中務少輔→中務大輔、1997石
1947石	■三戸民部少輔	三戸→完戸
1921石	長井伊勢守	
▼ 1899石	桂三郎兵衛	1839石
1872石	小田孫兵衛	
▼ 1115石余	香川甚右衛門	1749石
1697石	■有地美作守	美作守→美作
1682石	渡辺四郎右衛門	
1681石	■南方九右衛門	九右衛門→九左衛門
1677石	■平佐主計頭	主計頭→主計助
1652石	■国司隼人頭	隼人頭→隼人佐
▼ 1018石余	天野九郎左衛門	1632石
▼ 1690石	石原太郎左衛門	1609石
1593石	■ ^(宮) 宮嶋 <small>(注1)</small>	宮嶋→宮嶋法
1586石	■杉岡太兵衛	太兵衛→吉兵衛
1537石	伊達三左衛門	
1504石	■福原右近	右近→左近
1481石	長屋宮松	
1443石	熊谷藤左衛門	
▼ 1022石余	■己斐利右衛門 <small>(注2)</small>	利右衛門→理右衛門、1440石
1439石	財満次郎兵衛	
1411石	小川右衛門尉	
1395石	赤川主水佐	
1379石	宮瀬兵衛	
1333石	■佐世伊豆守	伊豆守→伊豆
1319石	門田神右衛門	
1300石	■宍戸左衛門尉	宍戸→完戸
1284石	吉田孫右衛門	
1280石	小田神兵衛	
▼ 933石余	粟屋久右衛門	1267石
▼ 1269石	清水五郎左衛門	1266石
1243石	■粟屋孫助	孫助→孫介
1181石	粟屋五郎左衛門	
1181石	野山清右衛門	
1179石	日野七兵衛	
1165石	内藤五郎兵衛	
1164石	■宍戸十郎兵衛	宍戸→完戸
1135石	■村上三助	三助→三介
1100石	村尾又右衛門	
▼ 1070石	天野次郎右衛門	1077石
1060石	■柳沢監物	柳沢→柳澤
▼ 597石余	国司土佐守	1042石
1000石	■草薙太郎左衛門	草薙→草刈
990石	小方太左衛門	

▼	625石余 964石	■渡辺五郎左衛門 井上五兵衛	五郎左衛門→五郎右衛門、968石
▼	993石 937石 925石	■神村三郎兵衛 三戸左馬助 上山善右衛門	神村→上村、943石
▼	911石余	■野美忠左衛門	野美→乃美、911石
▼	470石余 898石	粟屋小次郎 張六左衛門	909石
▼	551石余 877石 841石 853石 834石	市川孫右衛門 ■三浦四郎兵衛 星田蔵助 祖式源吉 ■梨羽助右衛門	885石 四郎兵衛→四兵衛 梨羽→利和
▼	597石余 823石 813石	粟屋縫殿 湯浅越中守 口羽主殿	827石
▼	810石 775石	■長重太郎 井上七郎兵衛	重太郎→金太郎、811石
▼	500石余 752石 748石 740石 738石	■佐波吉内 ■赤木丹波守 小泉助兵衛 ■内藤善右衛門 ■児玉市之允	吉内→善内、763石 丹波守→丹後 善右衛門→善左衛門 市之允→市允
▼	535石余 728石 707石 700石余 700石 676石 674石 672石 660石 659石 653石 648石 652石 640石	岡十郎右衛門 ■矢田新助 伊達三郎左衛門 ■宍戸善左衛門 阿曾沼源左衛門 粟屋太郎兵衛 ■田総三左衛門 夏見吉左衛門 児玉与三 留長源右衛門 ^(注3) 池上孫右衛門 ■佐々部又右衛門 口羽孫右衛門 村岡久作	737石 新助→新介 宍戸→完戸 三左衛門→三郎左衛門
▼	640石	岡与次郎	615石
▼	615石	村岡彦左衛門	609石
▼	601石余 579石 577石 577石	熊谷雅楽 ■有地九郎左衛門 ■井上彦左衛門 秋山孫三	580石 九郎左衛門→九左衛門 彦左衛門→彦右衛門
▼	504石 551石 543石 539石 538石 528石	■財満孫市 ■林梅林 平賀太郎左衛門 ■張善右衛門 木原次郎兵衛 ■津惣兵衛	財満→才間、554石 梅林→梅隣 張→長 津→津々

523石	粟屋次郎左衛門	
508石	渡辺市兵衛	
▼ 500石	大坂清右衛門	507石
504石	立音	
500石	■市川四郎兵衛	四郎兵衛→助兵衛
500石	曾祢孫左衛門	
以上 ^(マ) 149（8カ）人		

【凡例】

▼…『廣島御時代分限帳』と数値（石高）が異なるもの

■…『廣島御時代分限帳』と名前の表記が異なるもの（同一人物で名字・名前・官途名・受領名等の漢字表記が異なるケースも含む）

（注1）「宮嶋」は名字であり、その下の名前が脱漏したと考えられる。

（注2）己斐利右衛門は、『輝元公御代分限帳』の中の「御馬廻衆」においても記載がある（表5-2参照）。ただし、石高は1022石3斗2升5合となっている。

（注3）『廣島御時代分限帳』には名前の記載がない。

※『廣島御時代分限帳』に名前の記載があり、『輝元公御代分限帳』に名前の記載がない500石以上の者は以下のようになる。

2000石	益田修理
1450石	井上伯耆
1059石	高屋原弥右衛門
1023石	粟屋四郎兵衛
659石	富永跡

※『輝元公御代分限帳』に名前の記載があり、『廣島御時代分限帳』に名前の記載がない500石以上の者は以下のようになる。

659石	留長源右衛門
------	--------

表5-2
「御馬廻衆」

(『下関市史』資料編I)

石高	名前	『廣島御時代分限帳』の名前表記・石高表記との相違点
6598石2斗8升	×内藤為右衛門	
5490石7斗8升2合	×冷泉民部少輔	
4964石4斗8升1合	×口羽善九郎	
3477石2斗4升2合	○市川助兵衛	500石
2931石1斗5升9合	×口羽十郎兵衛	
2226石2斗2升2合	×三保四郎兵衛	
2156石3斗5升4合	○熊谷与右衛門	3682石
1866石2斗8升1合	△桂三郎左衛門	三郎左衛門→三郎兵衛
1683石9斗5升	△祖式一郎右衛門	一郎右衛門→次郎右衛門
1543石9斗2升5合	×志道太郎三郎	太郎三郎→五郎左衛門
1380石4斗4升8合	○長井伊勢若	伊勢若→伊勢守、1921石
1306石9斗4升8合	×三田五郎左衛門	
1215石3斗9升7合	△粟屋平右衛門	平右衛門→久右衛門
1173石9升3合	×内藤久太郎	久太郎→五郎兵衛
1161石2斗4升8合	×口羽久三郎	
1115石2斗8升7合	○香川勘右衛門	勘右衛門→甚右衛門、1749石
1032石7升6合	○宮瀬兵衛	1379石
1022石3斗2升5合	○己斐利右衛門 ^(注1)	利右衛門→理右衛門、1440石
1018石4斗1升3合	△天野九郎左衛門	九郎左衛門→五郎左衛門
1015石9斗4升5合	○長谷宮松	長谷→長屋、1481石
1008石5升5合	×坂新五左衛門	
999石2斗6升3合	○柳沢監物	柳沢→柳澤、1060石
984石4斗3升	×内藤下総	下総→五郎兵衛
950石8斗9升5合	×南方宮内	宮内→九左衛門
944石8斗8升7合	×柳沢三左衛門	柳沢→伊達
933石4斗1升3合	○粟屋久左衛門	久左衛門→久右衛門、1267石
808石7斗	×小方兵部	兵部→太左衛門
800石8斗	×林肥前	肥前→志摩
768石9升5合	○小河右衛門尉	小河→小川、1411石
759石5斗2升5合	×熊谷玄蕃	
758石9斗9升1合	×佐々部弥吉	
631石1斗7合	×吉原三郎兵衛	
625石3斗3升3合	○渡辺五郎左衛門	五郎左衛門→五郎右衛門、968石
618石1斗1升	×内藤新右衛門	新右衛門→善左衛門
601石5斗5升	○熊谷雅楽	580石
599石2斗5升1合	×上山兵庫	兵庫→善右衛門
597石6斗6合	○国司土佐	土佐→土佐守、1042石
597石3斗5升9合	○粟屋縫殿允	縫殿允→縫殿、827石
599石8斗3升9合	×長美作	美作→金太郎、或いは、善右衛門
551石7斗7升7合	○市川孫右衛門	885石
535石4斗8升1合	○岡十郎右衛門	737石
500石	○口羽孫右衛門	652石
486石2升2合	×天野吉蔵	
470石5斗2升	△栗原小次郎	栗原→栗屋

470石5斗2升	△高尾惣左衛門	惣左衛門→右衛門、或いは、又右衛門
446石9斗5升5合	×内藤左吉	
430石2斗4升1合	×秋山九郎兵衛	
403石4斗4升1合	△木梨善左衛門	善左衛門→平左衛門
400石2升4合	×長井藤右衛門	
394石1斗2升	×有福源助	
369石6斗9升5合	×粟屋左馬允	
326石1斗2升	○坂九郎左衛門	424石
311石7斗3升2合	×山田太郎左衛門	
301石9斗6升1合	○猶崎太郎兵衛	450石
300石7斗1升3合	○口羽六兵衛	420石
300（石）6斗2升6合	○内藤十右衛門	397石
300石2斗3升9合	×花房孫兵衛	
300石4斗	×富永勝三郎	
300石2合	○東久次郎	450石
296石4斗7升5合	×志道太郎左衛門	
268石7斗9升6合	○国司平左衛門	429石
264石2升3合	○入江与三兵衛	400石
257石6斗4升	×粟屋勝三郎	
251石4斗6升1合	×三井善兵衛	
250石	○兎玉与三	660石
248石1斗3升3合	○庄原市郎兵衛	市郎兵衛→一郎兵衛、351石
247石8斗4升2合	○赤川次左衛門	次左衛門→次郎左衛門、434石
246石2升	○井上新三郎	362石
245石9斗7升7合	○井上五郎左衛門	388石
245石1斗7升8合	○蔵田与三兵衛	360石
243石6升4合	○桂善左衛門	327石
239石1斗8升	×井上甚左衛門	
239石4斗7升9合	○井上彦右衛門	577石
226石5斗8升8合	○志道長門	長門→長門代、377石
221石2升8合	○中村孫右衛門	243石
208石6斗5合	○波多野源兵衛	213石
205石7斗1升5合	○山県平左衛門	山県→山縣、318石
201石8斗1升7合	×内藤弥左衛門	
200石8合	○高木惣兵衛	340石
200石	○国司備後	240石
198石9斗8升1合	×仁保惣兵衛	
192石5斗1合	×福原蔵助	
177石6斗1升2合	○小倉善右衛門	215石
181石1斗4升	×生田勝六	
178石1斗4升	○渡辺五郎左衛門	五郎左衛門→五郎右衛門、968石
176石8斗1升7合	△久芳 <small>(註2)</small>	
175石2斗4升7合	○黒河彦兵衛	黒河→黒川、236石
174石5斗4合	○内藤次兵衛	次兵衛→二兵衛、220石
170石5斗7升9合	×財満八郎兵衛	
170石	×福江仁左衛門	
160石3斗6升6合	○杉山左馬介	左馬介→左馬允、194石
154石6斗1升9合	×多賀谷久兵衛	
166石3斗6升9合	○長沼宮内	230石

156石9斗7升6合	×神保富菊	
153石8斗1升9合	×香川又兵衛	
152石8斗7升	×中村藏之允	
152石4斗5升8合	×原田 ^(註3)	
150石7斗1升	○志道惣兵衛	262石
145石6斗7升8合	×坂兵部	
145石3斗8升7合	×飯田五兵衛	
142石9斗8升8合	○渡辺孫十郎	252石
141石7斗4合	○井上七兵衛	144石
140石7斗7合	×佐藤文右衛門	
138石1斗9升	○上山惣兵衛	230石
135石1斗5升	○井上惣左衛門	209石
134石3斗8升9合	×山内又左衛門	
133石3斗8升8合	○江田新右衛門	248石
133石4斗4合	○桜井新左衛門	191石
128石7斗7升4合	○小川助左衛門	184石
126石5斗7升3合	△福原七郎兵衛	七郎兵衛→七郎右衛門
126石5斗6升3合	×仁保越中	
126石3升	△福西次郎兵衛	福西→福原
131石1斗3升7合	○土居市之允	市之允→市允、231石
133石3斗3升7合	△福井十郎左衛門	十郎左衛門→十郎兵衛
123石8斗3升1合	△波多野孫兵衛	孫兵衛→源兵衛
123石4斗9升3合	△山田善右衛門	善右衛門→平右衛門
123石1斗4升6合	○光永孫作	189石
123石1斗1升5合	○久芳与三兵衛	201石
119石3斗4升5合	○桜井又吉	137石
119石1斗5升2合	○児玉十郎左衛門	164石
117石5斗5升	×高橋与三兵衛	
117石9升	×浅草藤兵衛	
115石7斗7升5合	○小河善兵衛	小河→小川、180石
113石1斗2升	×長原藤兵衛	
110石5斗3升	×財満神右衛門	
111石5斗7升7合	○佐藤惣左衛門	惣左衛門→惣右衛門、186石
112石4斗7升5合	×坪井三郎兵衛	
109石8斗1升2合	○白倉彦左衛門	137石
109石7斗9升7合	○三木次右衛門	175石
109石1斗8升4合	×山県久三郎	
108石7斗3升8合	×土居大膳	
108石4斗8合	×末国伊豆	
106石7斗1升9合	×遠藤修理	
104石9斗5升5合	×杉四郎兵衛	
103石2斗7升	○羽仁藤左衛門	藤左衛門→藤右衛門、209石
103石2斗5升	○井上九左衛門	135石
103石1斗5升9合	×林空之助	
102石	×福井源左衛門	
101石6升9合	△赤川又藏	又藏→又六
100石4斗6升8合	×宇野又右衛門	
100石3斗8升6合	○馬場小兵衛	116石
101石1斗2升2合	○長野右衛門太夫	右衛門太夫→右衛門大夫、159石

99石8斗9升6合	○井上李助	李助→木工助、120石
99石7斗8合	○飯田与一左衛門	169石
99石1斗8升2合	×中原善左衛門	
99石5斗3升2合	○福原和泉	149石
96石2斗9升2合	×坪井雅楽之允	
90石7斗6升8合	△門田五郎兵衛	五郎兵衛→五兵衛
90石5升	○作間新五左衛門	115石
85石2斗2升1合	×高橋彦左衛門	
84石3斗8升8合	○赤川又六	77石
83石1斗6升	○三戸六郎右衛門	109石
82石7斗1升	×林彦兵衛	
80石2斗1升	○船越太郎兵衛	船越→舟越、80石
77石8斗7合	○児玉助右衛門	助右衛門→助左衛門、177石
70石5斗8升2合	○安田長右衛門	93石
73石7斗3升8合	×井上弥十郎	
75石2斗2升2合	×長沼市助	
68石8斗1升3合	○田総五郎右衛門	田総→田綱、101石
67石9斗	×上山五兵衛	
64石8斗2合	×家近助兵衛	
61石4斗2升5合	×福島大和	
60石7斗9升8合	△井上惣兵衛	惣兵衛→惣右衛門
60石9斗6升5合	○中村新兵衛	86石
60石9斗8升	○国司助右衛門	85石
58石2斗	○福原惣右衛門	惣右衛門→惣左衛門、243石
53石8斗3升6合	×遠藤六郎兵衛	
53石7斗9升	△三河内介兵衛	介兵衛→勘兵衛
49石3斗3升	△児玉六郎兵衛	六郎兵衛→六郎右衛門
40石8斗1升7合	○中村平左衛門	68石
46石9斗8升8合	○久芳周防	77石
45石7斗2合	○木村彦左衛門	73石
39石5斗4升2合	×田中九郎左衛門	
37石6斗	×治川兵部	
35石8斗8升9合	△飯田奎之助	奎之助→木工允
32石6斗9升6合	△田川新兵衛	田川→田門
32石4斗8升8合	×福原源兵衛	
30石1斗3升2合	×羽仁新兵衛	
10石2升4合	×香川美作	
	(ママ) 以上182 (179カ) 人	

【凡例】

○…『廣島御時代分限帳』に名前の記載があるもの。漢字の表記が一部異なるものでも同一人物と見なすことができる場合は○とした。

×…『廣島御時代分限帳』に名前の記載がないもの。

△…『廣島御時代分限帳』に近似した名前の記載があるもの。必ずしも同一人物と確定できないケースも含む。

(注1) 己斐利右衛門は『輝元公御代分限帳』の箇所ですすでに出ている(表5-1参照)。ただし、石高は1022石余となっている。

(注2) 「久芳」は名字であり、その下の名前が脱漏したと考えられる。『廣島御時代分限帳』において「久芳」を名字とし、石高が近似した者には、「久芳新太郎(163石)」がいる(表1参照)。

(注3) 「原田」は名字であり、その下の名前が脱漏したと考えられる。